

OTOTEN2019 映画を聴こうプロジェクト報告

一般社団法人日本オーディオ協会

副会長 猿谷 徹 (株式会社ヤマハミュージックジャパン)

概要： OTOTEN2019 において“映画を聴こうプロジェクト 2019”は、“ホームシアター”の認知拡大に取り組みました。

ABSTRACT： At the OTOTEN 2019, “Let’s listen to Movie Project 2019” worked to expand awareness of “home theater”.

1. はじめに

映画を聴こうプロジェクトとは、昨今の大型 4K テレビの普及拡大を機会ととらえ、大型テレビにお手軽なホームシアター機器をセットすることで、“映画をもっと良い音で聴きませんか（楽しみませんか？）”という日本オーディオ協会ならではのアプローチから“ホームシアター”の認知拡大を図るプロジェクト。昨年の年末商戦期に、プロジェクト参加企業のホームシアター関連新商品のプロモーションを兼ねた“聴きたい映画総選挙”という聴きたい映画作品の人気投票を行い、約 2000 名の一般の方々が投票に参加されました。

OTOTEN2019 では、この“聴きたい映画総選挙”の結果発表と絡めて、様々なスタイルのホームシアター機器で聴きたい映画総選挙での人気作品を、実際に“触って、聴いて、浸る”体験をして頂く機会づくりに取り組みました。

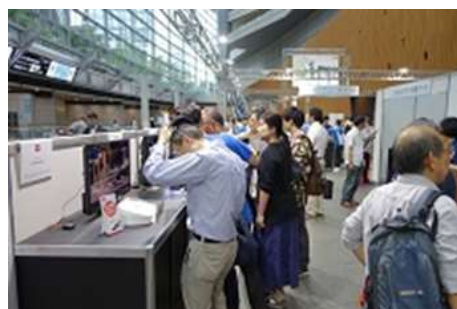
手軽に「TV の音をもう少し良くしたい！」というお客様から最新のハイエンドシアターに興味を持つお客様に至るまで、幅広い顧客層に向けた様々なブース・コーナーを展開しました。

2. OTOTEN2019 における様々なホームシアター体験の場

● B1F ロビーギャラリー

『おすすめアイテム体験コーナー』

プロジェクト参加企業がおすすめる手軽なホームシアター関連機器：ネックスピーカー2機種、サウンドバー4機種、2.1ch ホームシアターシステム2機種の合計8機種を展示し、来場者に“聴きたい映画総選挙”での人気上位の映画作品の一部を、実際に聴いて体験いただけるコーナーを設置いたしました。



両日とも開始から1時間位は、少なかった来場者も午後に向けて多くなり、日曜の終了間際の時間帯でも、多くのお客様がおり、体験の場としては、大変好評でした。中でもネックスピーカーの注目度は高く、アウトドアユースも含め新たな拡がりが見込めるジャンルに思われます。

『NHKの8Kリビングシアター』

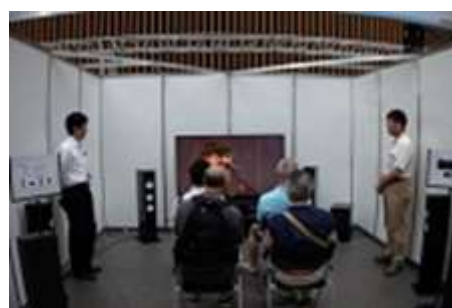
昨年12月からスタートしたNHKのBS 4K8K放送の8K映像と22.2ch音声の臨場感を体験して頂くブースです。



選りすぐりのコンテンツによる8K映像と22.2chの音声に包み込まれる体験ができるこのブースには、常に来場者がいて盛況感が漂い、延べ約3,000名の来場がありました。

『7.1ch サラウンド体験コーナー』

NHK BS 4K8K放送のコンテンツを一般家庭での楽しみ方の提案として、ONKYOのAVレシーバーと7.1chスピーカーで構築されたシステムで体験して頂くブースです。



コンテンツによっては常に満席、ときには立ち見が出る状況にもなり、好評でした。20代～30代といった多くの若いお客様に、8K+サラウンドの楽しさをご体感頂きました。

● ガラス棟 G408

テレビ単体での音声と、比較的簡単なホームシアター機器3種を使用した時の音声の違いを、聴きたい映画総選挙で人気第1位の「グレーテスト・ショーマン」の一部を使って比較視聴できる体験ブースとしました。

1. TV (パナソニック 65インチ) 本体だけの音声

2. ヤマハのサウンドバーのサウンドバー単体型を接続での音声
3. ヤマハのサウンドバー+サブウーハー型を接続での音声
4. Marantz の AV レシーバーと DALI のスピーカーで構成された 4.1ch サラウンドシステムによる音声

また、映画配信会社ビデオマーケットの配信作品紹介や夏公開映画の予告編紹介も行いました。



計 10 回開催した試聴イベントは毎回ほぼ満席であり、こうした聴き比べは初めてでしたが、大変好評でした。

また両日各 1 回ずつ映画に絡んだトークイベントも開催し、満席で最終的に立ち見が出る程であり、土曜日が延べ 50 名、日曜日が延べ 90 名の来場がありました。座席数からは、延べ定員約 300 名ですが、立ち見や入れ替えを含め延べ 1,000 人を超える来場者があったと思われ、映画コンテンツに絡めたプロモーション手法と様々なホームシアター機器を比較視聴体験できる機会作りが重要との認識に至りました。

● ガラス棟 G603

Denon と Marantz の AV アンプを中心に Hi-End シアターや新製品の比較試聴及び、Auro 3D サラウンドシステムで、更に上質な環境でシアターサウンドを体験して頂くブースです。TV はシャープの 70 インチ使用。



ホームシアターの啓蒙を主眼として、各製品の詳細よりも、最新のホームシアターのトレンドや AV クオリティの進化を紹介しました。

他ブースと比べ来場者には女性や若い世代も多く見られました。

30 分 1 コマのイベントを計 24 回開催し、延べ約 1,000 名の来場がありました。

● 各社のホームシアター関連ブース

プロジェクトとして直接運営に関与してはませんが、各社が独自に展開していたヤマハ ハイエンドホームシアターブース (G505) やオンキヨー&パイオニアの“ガールズ&パンツァー最終章” (C)GIRLS und PANZER Finale Projekt とのコラボによるブース (G504) など大盛況でした。

3. まとめ

B1F ロビーギャラリー、G408、G603 及び各社ホームシアター関連のコーナー・ブースもいずれも盛況であり、OTOTEN2019 において、様々なホームシアター関連アイテムに触れて体験して頂くという取組みは、大変良かったように思います。同時に、一般の方々にホームシアター機器の認知が十分ではないこともあらためて認識でき、まだまだ市場に伸びしろがあることも確認できました。

特にホームシアター機器を単にハードとしてプロモートするのではなく、今回の「映画を聴こうプロジェクト」のアプローチのようなコンテンツと絡めた楽しみ方の提案が、今後のホームシアターの認知拡大、顧客層のすそ野拡大に寄与するものと期待しています。

今回の「映画を聴こうプロジェクト」参加企業、特別協力は次の通りです。

<参加企業>

- ・オンキヨー&パイオニア株式会社
- ・シャープ株式会社
- ・ソニーマーケティング株式会社
- ・株式会社ディーアンドエムホールディングス
- ・パナソニック株式会社
- ・ハーマンインターナショナル株式会社
- ・株式会社ヤマハミュージックジャパン
- ・株式会社ビデオマーケット

<特別協力>

NHK